

28. 食用野生きのこの人工栽培試験 (4) ハタケシメジ栽培試験

桃澤邦夫

〔目的〕

既述(1) ムキタケ栽培試験に同じ。

〔方法〕

試験目的に合致するきのこの中から標記を選定し供試した。4系統の菌を用いて、シイタケ廃ホダ(コナラ、既にシイタケによる分解を経ている)のオガ粉とブナのオガ粉(未分解)にそれぞれコメヌカを添加した区を設け、各区16本の瓶栽培による比較試験とした。培地の調製等は表-1に示した。接種は'96(H8)年11月27日及び12月10日に行った。

なお、供試した4系統は当场で収集した12系統の菌の中から昨年度に実施したPDA培地上での伸長比較試験で菌伸長の良好であった系統である。

培養中は瓶内側面に浮き出る菌糸の被度を目視計測している。

〔結果〕

本欄は'97(H9)年2月の段階で培養中のため、接種後55日目までの培養状況をまとめた。

各区分の雑菌汚染状況は図-1に示した。菌系統の別では『日高-1』がコナラ廃ホダ培地で汚染された試料が多く、培養継続率が低下している。

現時点で雑菌汚染で廃棄した菌床は、瓶外から明らかに雑菌と判定できるもののみである。このため培養継続率が高い系統の中に汚染を受けている試料が含まれている危険がある。

接種後55日目までに汚染が確認されていない試料を対象として、集計した菌糸被度を図-2にまとめた。各菌系統、培地とも菌糸の生長は緩慢である。菌系統毎あるいは培地別に差の検定は行っていないが、見かけ上からは菌系統による差異はみられないようである。また、培地については、ブナ培地では徐々に生長しているが、廃ホダ培地では停滞しているように見える。

表 - 1 ハタケシメジ菌床栽培試験の概要

菌系統	培地 樹種等	試料数	備 考
瑞穂-1	各系とも	各系とも	・供試菌床：850cc瓶 ・培地配合：フナまたはコナラ廃材粉：コヌカ=10:1（絶乾重配合） 水分湿量基準65% ・滅菌処理：1.2気圧 120°C60分滅菌 ・接 種：① '96(H8).11.27接種 ② '96(H8).12.10接種 ・培 養：25°C-90%の恒温恒湿室内で暗室培養
日高-1	①フナ+コヌカ	① 16	
立川-1	② コナラ廃材+コヌカ	② 16	
五日市-1			
供試菌系統：'95(H7)年度の PDA培地上の菌糸伸長試験で菌伸長の良かった系統			

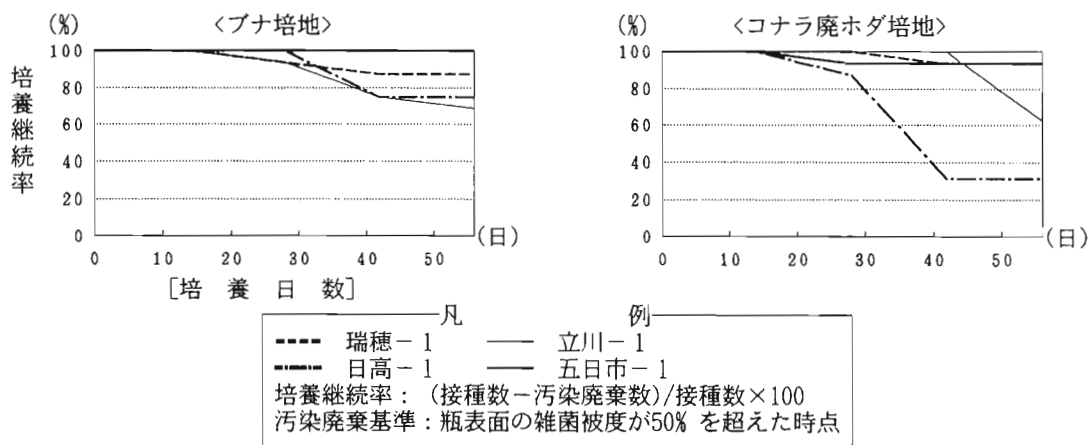


図 - 1 培養中の雑菌汚染状況

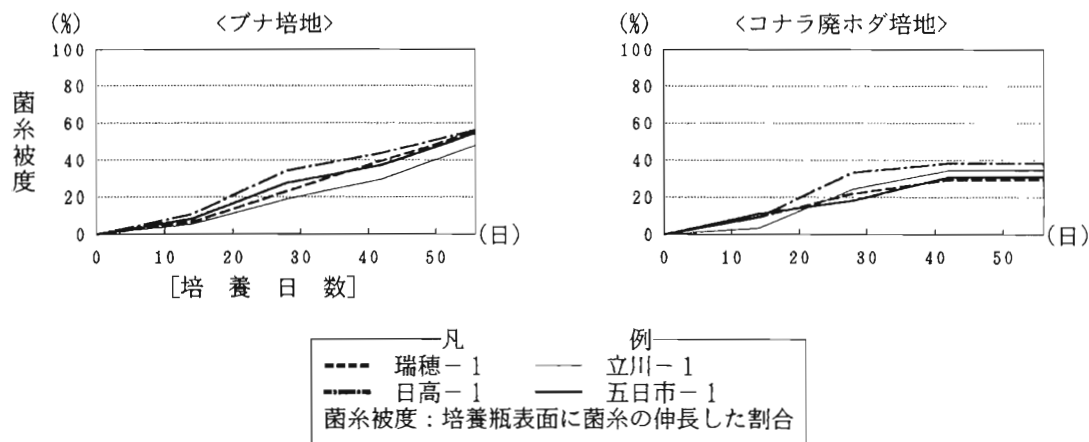


図 - 2 菌糸伸長状況